

巻頭言

「聞こえと雑音」

理事長 新谷 友良

左耳の人工内耳手術から4年、右耳の人工内耳手術から2年経過します。両耳の人工内耳装用を考えた理由は、雑音・騒音のなかでの聞き取りを良くしたいということでした。左耳に人工内耳を装用して、一定の聞き取りの改善は実感できましたが、雑音のなかでは非常に聞き取りが落ちます。また、多人数の会話でも極端に聞き取りが落ちます。何とかならないかとお医者さんに相談し、残っている右耳にも人工内耳を装用しました。

人工内耳は、手術後2年ぐらい経過すれば一応聞き取り能力は安定する、と説明を受けていましたが、今のところ両耳装用で期待したような聞き取りは得られていません。音の移動や方向を右耳・左耳で聞き取っていることは実感されますが、やはり雑音のなかや多人数の会話では極端に聞き取りが悪くなります。最近の補聴器や人工内耳ではマイクの指向性を高める機能や雑音除去の機能が謳われていますが、両耳装用の聞き取り改善効果がどのようなものなのか、多くの方の感想を聞きたいと思っています。

多人数の会話での聞き取りについては、「たくさんの人がそれぞれに雑談しているなかでも、自分が興味のある人の会話、自分の名前などは、自然と聞き取ることができる」カクテルパーティ効果ということが言われます。宮城大学の茅原先生は「聴覚系は二つの耳に到達する音の時間差を利用して不要な残響成分を取り除くことができる」（先行音効果）と説明されています。左右の耳が聞き取る音にはわずかな時間の差があり、それが雑音や聞きたくない音を除去するのに役立っているようです。

また、茅原先生は「録音した音を聴くのが、直接自分の耳で聴くときより聴き取りにくいのは、直接聴くときには使っているいろいろな手がかりが録音の音では使えなくなっているからです」と説明されています。手がかりの多くは、視覚による情報と思われるのですが、聞きたい音（マイクが拾った音）以外の音も聞き取りたい音を聞くために、あるいは役に立っているのかもしれませんが。

耳は二つあるので、両耳装用の補聴器や人工内耳が聞こえの改善をもたらすことは間違いないと思います。両耳にある人工内耳は頑張っているが衰えつつある私の脳がそれに応えきれていないようです。聞こえの問題は一筋縄ではいかないことを改めて認識している毎日です。